

# 空家における実態調査の省力化の実現と有効活用策の創出 伝統的古民家の再生に向けた取り組み

## 北大路魯山人について



## 目的

利用価値のある空家を迅速に調査し、  
新たな活用方法を提案し、古民家の活用を促す

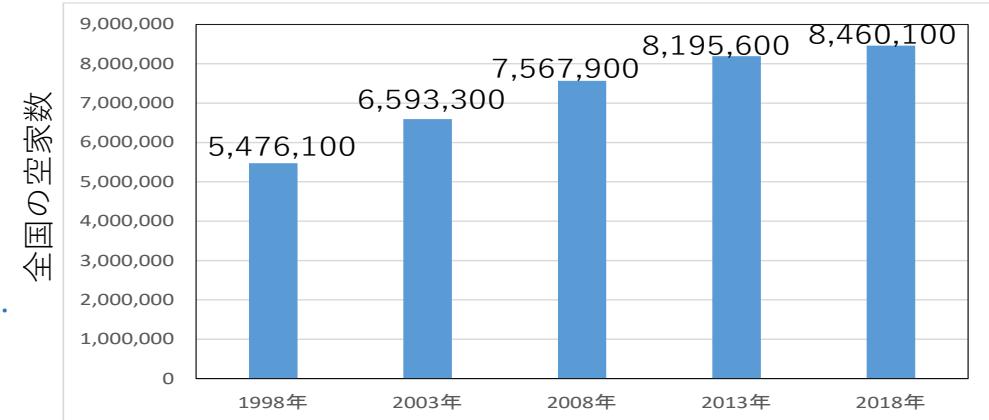
魯山人に縁のある古民家を対象として、3Dモデルの作成とリニューアルプランを作成する。魯山人ファン（富裕層）をキッカケとして、古民家の改修を全国に広める。

現在の空家に対する需要の対象は、コロナ禍で収入の減ったサラリーマンである。ROSANJINプロジェクトにより、空家のリニューアルの総コストが下がる。その結果、空家の利活用は進む。

全国で年間850万戸の空家が発生する。現在、『空家の発生を抑制する仕組み作り』が急務となっている。

## 背景

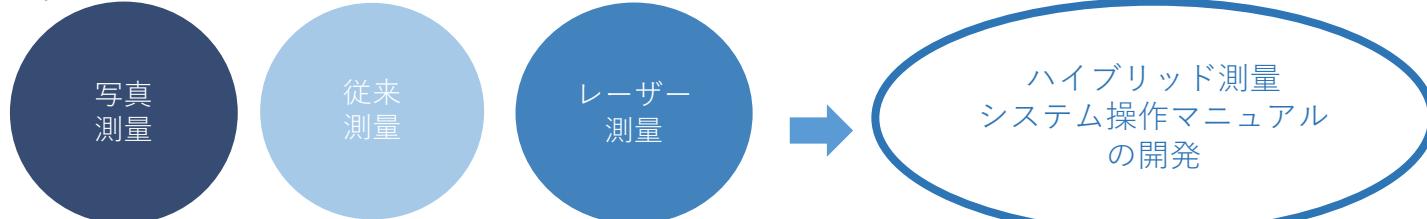
2018年の日本全国の空家数は約850万軒。  
福井高専のある鯖江市の空家数は2550軒。  
今後も増え続ける空家を減らすことが重要である。



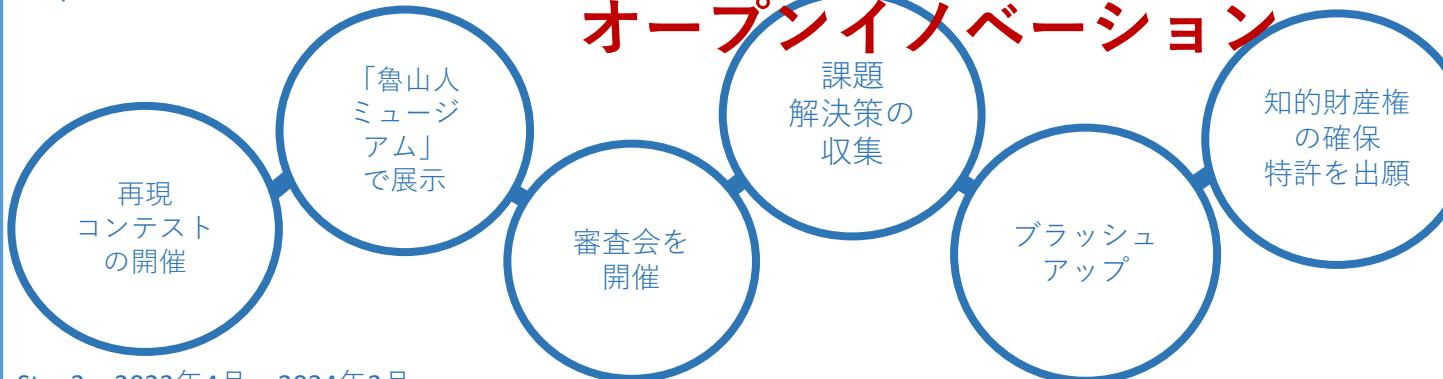
北大路魯山人は日本の芸術家であり、1883年（明治16年）に生まれ、1959年（昭和34年）に没した。  
魯山人ゆかりの古民家が空家として鯖江市に残っている。

## 技術開発

Step1 2020年9月～2022年3月



Step2 2022年4月～2023年3月



Step3 2023年4月～2024年3月

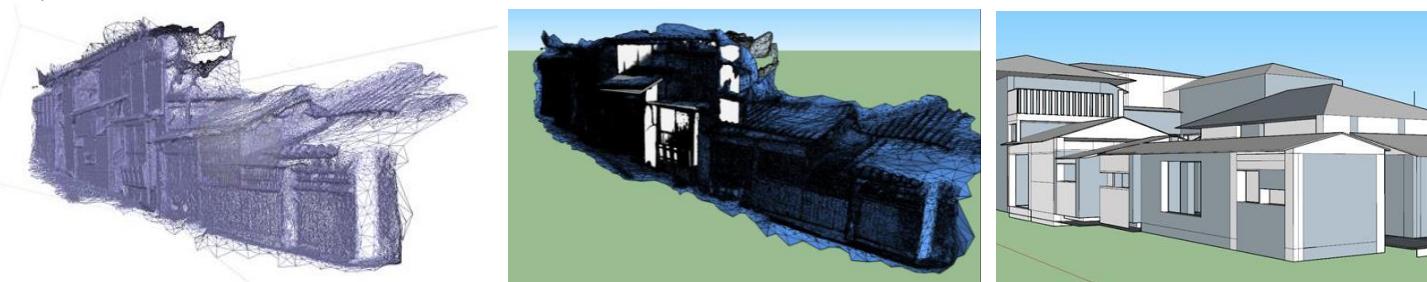


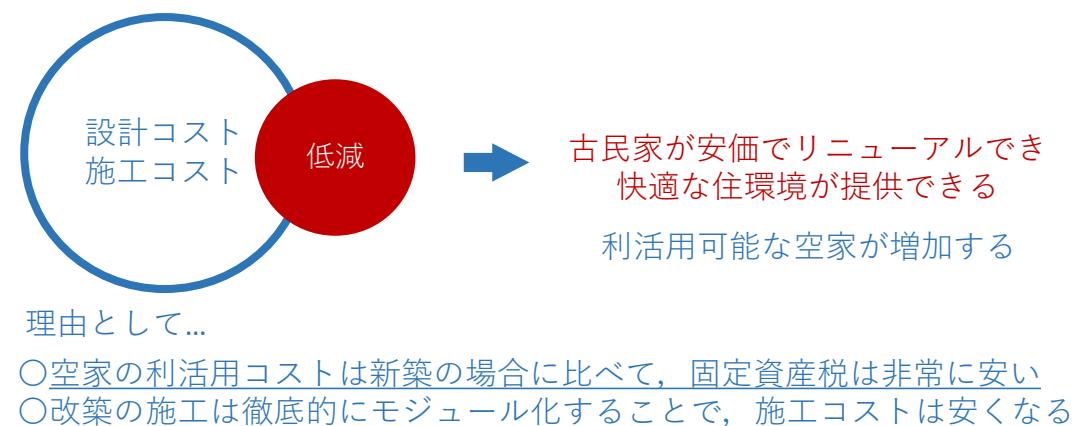
図1 画像測量による3DモデルA

図2 画像測量+レーザー測量による点群データの3DモデルB

図3 最終成果（商品）

ブラッシュアップした操作マニュアルの作成を通じて自動化プログラムのアルゴリズムを開発する

## 技術開発による効果



## 事業計画

全国の高専で開発された3Dモデルの再現方法を収集しブラッシュアップする。

